

カトリック 大名町教会ニュース

DAIMOUMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER

〔ミサ時間〕 主日：7時・9時30分／ベトナム語（第2・第4日曜日）：14時／英語：16時

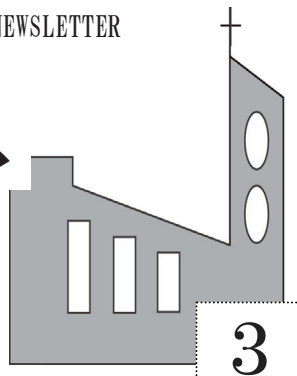
〔ホームページ〕 <http://www.daimyomachi-c.or.jp/>

〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ（土）18時

TEL: 092-741-3687 Fax: 741-5107

〒819-0012 西区能古弁当 1621-12

発行責任者：中村 彰 神父



3月 聖ヨセフの月

福岡教区年間目標：互いに支え合う交わりの教会となる

大名町教会年間テーマ：出向いて行く教会となる！

Becoming a Church of outreach

3月のお知らせ

- ◆ 3日（日）四旬節第3主日
・シノドスの実践—学習会
9時半ミサ後 テーマ：「宣教」
- ◆ 8日（金）・15日（金）・22日（金）
・15時 十字架の道行き
- ◆ 17日（日）転会式と堅信式
・9時半ミサの中で
- ◆ 19日（火）聖ヨセフの祝日
・アベイヤ司教・中村彰神父霊名の祝日
- ◆ 23日（土）10時～枝洗い（ご協力を）
- ☆聖週間
- ◆ 24日（日）受難の主日（枝の主日）
- ◆ 27日（水）15時 聖香油ミサ



回心のしるしとして
わたしたちが頭に受ける灰
昨年の枝の祝日の枝で作ります。



今年の四旬節黙想会、「1年1年神様との約束を更新していきましょう。」と導いてくださった古巣馨神父様。

聖なる過越しの3日間

- ◆ 28日（木）聖木曜日
・19時 主の晩さんの夕べのミサ
〈アベイヤ司教司式〉
- ◆ 29日（金）聖金曜日（大斎・小斎）
・19時 主の受難の祭儀 〈アベイヤ司教司式〉

- ◆ 30日（土）聖土曜日
・19時 復活の聖なる徹夜祭 〈アベイヤ司教司式〉
・入信の秘跡（洗礼、堅信、聖体）
- ◆ 31日（日）復活の主日
・10時 教会学校堅信式 〈アベイヤ司教司式〉

ゆるしの秘蹟：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。（毎週土曜日 10時～11時半）

現代のバベル塔

2月23日に福岡神学院の閉院ミサがありました。編入生でしたが、福岡神学院は母校でもありましたので、寂しい感じがしました。神学生が足りない現状は日本だけではなく韓国でも現在進行形です。10年前に20名ぐらいの司祭が叙階したところ、今は5名しか叙階されなくなりました。なぜこのようになったのか。ある研究資料によりますと、豊かな国でこそキリスト教の力がだんだん失われているらしいです。神さまより世が与えることにだんだん見惚れてしまう結果ではないかと思えます。昔と比べて今の時代は便利になり過ぎました。あえて天の神に祈らなくても「現実の神」である「金」に祈ればなんとかなる。そのように人々は昔のように現代のバベルの塔を建て、そこに見惚れています。

見惚れるの「惚」の漢字を考えてみましょう。「心」があります。それはすなわち、私の心はどこにあるのかに対する質問でもあります。古代の人々は人間の力で何でもできると信じ、自分たちの手で天に戻る塔を築きましたが、結局その塔は崩れました。今の人も金、物質万能主義、科学万能主義などの塔を築き、それを通してまた自らの力だけで天に上がろうとしています。しかし、神が望まれる天に上る正しい道はイエス・キリストの死と復活という過越の神秘のみです。今回の四旬節、私の心は誰に向けられているかをよく考え、この世のバベルの塔に見惚れていないかよく考えてみましょう。

大名町教会助任司祭

マルチエロ・アパマ

ジョン・ウオンチヨル神父

2月24日(土)・25日(日)に四旬節黙想会が開催されました。講師は長崎大司教区の古巣神父様でした。

イエス様は、「人里離れた所に行って休むがいい」、「疲れた人、重荷を負う人は私のもとに来なさい。休ませてあげよう。・・・」と言って、私たちをこの黙想会に招いてくださいました。

神父様は、ご自分のお母様の「疲れたと言ふな。神様がよかごととしてくださる」の言葉と、畳に頭がつくくらしい体を折って祈る姿から神様の存在を伝えられたと話されました。

たくさんの人との出会いから、素朴な信仰を深めた人の三つの印として、一つは「それでも笑える人」

水難事故で夫や子どもを亡くした女性、「どうしてそうなったか分からない時は胸に納める、くよくよしたら信者じゃなか」と話されたこと。二つ目は「順序が違う人」

私たちはより自分の都合の良い方を選んで生きているけど、キリストは仕えるためにきた。命を差し出すために来たこと。三つ目は「人の賜物になっ

ている人」

「たくさん分けてもらいました。大切なものを手渡してもらいました」と感謝して亡くなった人がいたことなどを、具体的にあげられました。中村哲さん、マザー・テレサ、永井隆医師、緒方貞子さんも、印を持っていた人だと思えますと話されました。

「殉教時代、踏み絵は黙想会だった」、「誰かに出会わないと私になれない」、「あなたに出会って本当に良かった」、「誰かの賜物になれたら素晴らしい」、「日本語は『あ・い』から始まって『を

「人里離れた所に行って休むがよい…」 ～古巣神父を迎えて四旬節黙想会～

(お・ん)で終わる。『愛』から始まって少しでも『恩』で返ししましょう。静かに話される神父様の言葉はどれも心に深く響きました。

◆参加者の感想です。

・「分からんことがあっても心に納めておく」と神様がよかごととしてくださるのですね。マリア様がそうであったように、私もマリア様に倣いたいです。

・「素朴な人の信仰を集めたら三つの印があるとおっしゃいました。努力して誰かの賜物になりたいと思います」。

・「『平和のために働いて神の子と呼ばれたい』と自分の都合ではなく、神さまの都合で生きると言って、33年間も入院していた「みねやん」のお話を、荒れていた6年生全員に話しました。そして、『平和のために働く』とはどういうことかをみんなで考えました」。

・「母も同じように、朝早くから夜遅くまで働いていました。夜は家族全員で祈って休みました。親から信仰を伝えられました。苦しみを神にささげるそれが当たり前、そんな姿を見ていました。いつも神様は一人ひとりを見ておられ、一人ひとりに試練を与えて、苦しんだ分、喜びをお与えになるのではないのでしょうか。二日間涙の出る感動を味わいました」。

神父様は、「黙想会は、洗礼の恵みを思い起こし、神さまとの約束を更新する日です。すべてのものを遮断して黙想を大切にしましょう」とおっしゃいました。神父様のお話に感動して、多くの人が涙を浮かべながらお聞きした今年の黙想会でした。

今回も、福岡教区が掲げる宣教司牧方針の具体的な実践を目指すシリーズの企画です。「共に歩む教会」交わり、参加、宣教」をテーマに、みことばを聞き黙想した後、分かち合います。教区の信仰養成チームがプログラムを用意し、同伴していただきます。

共に歩むとはどういうことか、自ら参加する(部分を担う)ことによって、共に学んでいきたいと思っています。

2月18日のミサ後、第2回、「参加」について「みことば」を聞き、分かち合いました。

「聖霊への祈り」を捧げ、「ひとつになろう」を歌い、実り多い分かち合いになるように臨みました。

同伴者の安藤智子さん(福岡教区信仰養成チーム)は、テーマの「参加」は英語で「Participation」と言い、「一人ひとりが部分を担う」という意味ですと、テーマ「参加」の積極的部分を紹介しました。

テーマを分かち合いに導く講話をされたレナト神父様(福岡教区信仰養成担当)は、聖書の中の「マタイ福音書14章13、20」を提示されました。

多くの群衆がイエスの話を聞きに集まり、パン五つと魚二匹しかないのに全ての人が食べて満腹したというお話です。神父様の話を聞くまで、この箇所がどうして「参加」というテーマに関わるのか分かりませんでした。

「この箇所には『(パンと魚が)増えた』という言葉はありません。増加(奇跡)よりもっと大切なことを書きました。『増やす』ことではなく『配る』『配らせる』こと。イエス様は弟子に『あ

シノドス実践「共に歩む教会」②

—交わり・「参加」・宣教について—

あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と言われました。イエス様はあきらめない。今あるものを大切にされました。五つのパンと二匹の魚は群衆の中から集められました。イエス様は一人で行われたのではない。弟子たちに協力を求められ、群衆も、持っている物を出し合いました。レナト神父様のこの話で、「参加」することの意味を深く知ることができました。それから、参加者38人が5、6人のグループに分かれて分かち合いを行いました。

・「五つのパンと二匹の魚しかない」悲観的な弟子たちの言葉を『五つのパンと二匹の魚もある』ととらえればゼロではない。希望・可能性があると思いました」。

・「一人ひとりのタレントを持ち寄れば、希望のみことばで生かしてくださると思いました」。

・「今ある五つのパンと二匹の魚のたとえのように各自がもっているタレントを出しあって行く(参加すること)で奇跡は起きるのだと悟りました」。

・「同じ聖書の箇所を呼んでも受け取ることが違って、これこそがそれぞれがいただいた賜物で、違うからこそ素晴らしいのだと感じました」。

・「今回はとても実りのある分かち合いでした。お恵みを主に感謝いたします」。

イエス様が私たちに「参加してください」と呼び掛けられていることに深い感動を覚えた分かち合いでした。三回目のテーマは「宣教」で、三月三日(日)ミサ後に実施します。ぜひご参加ください。

講演会

教区信徒協主催
元和の大殉教

キリシタンの歴史が現代に生きる私たちのこれからを照らす！

2月23日(金・祝日)、長崎大司教区
の古巣馨神父様を迎え、講話をお聞き
しました。神父様のお話しから次のよう
なことがわかりました。



豊臣秀吉、徳川家康・秀忠・家光になるにしたがって、キリスト教に対する禁止令・命令が厳しくなりキリシタン狩りが猛威を振るいました。火刑、斬首、

穴吊りなどの処刑はひどくなり、元和時代には、京都・長崎・江戸で大殉教が起きました。為政者による迫害は明治初期まで続きましたが、絶対唯一の神の愛を説くキリスト教は語り継がれ、受け継がれてきました。

神父様は「私たちの先祖であるキリスト教徒は、試練の中でも『わたしたちは一つです』と言いました。今、私たちの教会は一つですか?」と問い、「神は傷みかけた教会をそのまま放っておきません。殉教者の芽は生えてくると信じます。」という言葉で締めくくられました。

殉教は昔の物語ではなく、今とつながっていること。神様の愛と救いの歴史を語り継ぎ、神とともに仕える者になって生きることができるようにならせてくださいと祈りました。

アンジェラ メリチ 谷口純子

スーパの会

私たちは、一緒にいます

今年も2月と3月の2週目までの毎週金曜日は、スーパの会の炊き出しが行われています。

この活動はこの大名町教会で、40年近く続いていきます。当時は博多駅や天神周辺にたくさん野宿者がいました。すでに炊き出しをしていた吉塚教会に協力する形で始まりました。今では多くの小教会や学校などからの参加もあります。

午後2時から豚汁とゆで卵を作ります。スーパの会の豚汁は具沢山で生姜が効いて、「とても美味しい」と皆さんに喜ばれています。おにぎりやお弁当が、企業、プロテスタント教会、お寺などから寄付されています。

夜は準備などをして、21時に市内の8つのコースに別れて夜回りに出かけます。

おにぎりや豚汁を渡すのが主な目的ではありません。それを通じて、「こんばんは」とあいさつして、「わたしたちは一緒にいます」ということを伝えるための活動です。

マリア・インマクラータ 前田 由樹



アベイヤ司教様も一緒に!



6名の洗礼志願式

2月18日(四旬節第1主日)のミサの中で、6名の方の洗礼志願式が行われました。

この方たちは、3月30日の復活徹夜祭に洗礼・堅信・聖体の入信の秘跡を受けます。

復活徹夜祭の中で、三つの秘跡のお恵みを待ち望むこの方たちの信仰が強められ、豊かなものになるように祈りましょう。

すでに洗礼を受けている私たちも、この四旬節の間、洗礼のお恵みを思い起こし、回心し、再び信仰を深めていく期間となるよう祈りましょう。

十字架の道行き

四旬節に入り、大名町教会では金曜日の15時から、2階の小聖堂で「十字架の道行」を行っています。

キリストの受難をしのび黙想しながら祈ります。聖堂に掛けられた14留の受難を現わす聖画の前にたたずみ、聖なる十字架によって私たちに救いの道を開いてくださったキリストの道行きをたどる祈りの時です。

日々の思いや行いを思いめぐらし、回心を祈る時にしています。ご参加をお待ちします。



38年目の改修工事

司祭館の3部屋の改修工事が終わりました。今の教会建物ができて以来(1986年)の初めての改修工事です。

塔屋外壁面の防水性能強化工事や、エレベーターホール天井部分の「雨染み」部分の補修も済みしました。

これを機に、各部屋に置いていた破損している物、不要で使っていない物など廃棄や見直しをし、片付けています。

営繕部、施設管理部の委員と一緒に奉仕していただいたみなさんは、この寒風の中、汗びっしょりで作業いたしました。各委員会やアクション団体にも、破損した物の廃棄、不要な物の見直し、片づけを呼びかけています。みなで協力し、整理・整頓された、利用しやすい教会にしていきたいです。

ゴミ出しをしてくださる人

日曜日でも平日も、私たちが出したゴミ

を片付けてくれる人がいます。何十年も続けて...



宣教司牧評議会

◆ 議題

(2月11日)

(1) 組織図、各部使命・活動内容、アクション団体の目的・活動内容のお知らせについて

共に歩む教会として成長していく為に、各部の目的、役割を掲示し信徒の皆さんへの呼びかけを始めている。より充実した組織にする為にどの様な方法があるのか継続的な検討が必要である。

(2) 信徒総会日程

2024年5月19日(日) 第2ミサ後、内容Ⅱ年間テーマの決定

各部活動報告に関する件

2024年6月2日(日) 第2ミサ後、内容Ⅱ会計報告に関する件

(3) 四旬節の黙想会の準備状況

2024年2月24日(土)、2月25日(日) 小教区黙想会(古巣馨神父様指導)の準備状況を確認した。

(4) 駐車場の利用方法について

駐車場検討委員会を立ち上げて具体的な対応策を検討することとした。

検討委員会のメンバー選任を含め豊嶋評議員、杉山評議員が委員会を立ち上げ、運営を担当する。

(5) 行事部Ⅱ復活祭パーティーの実施の予算と外国語ミサの方の参加について

復活祭パーティーに外国語ミサの方にも参加を呼び掛けて共に歩む教会を目指す。予算15万円で承認。

(6) その他

①事務室内は個人情報等が沢山あるため、入室の可否を厳格に管理するための記録簿を作成する。

②グループの集まり等に対する教会施設の使用料について見直しを検討する。

③転入者に維持費等を案内する際の取決めについて、右記②と総務、財務が改定案を作成する。

◆ 報告事項他

(1) 典礼部Ⅱ典礼部より聖週間の日程

3月23日(土) Ⅱ枝洗い・3月28日(木)

Ⅱ聖木曜日・3月29日(金) Ⅱ聖金曜日・3月30日(土) Ⅱ復活徹夜祭

3月31日の復活徹夜祭に使用するローソクを各自で準備していただくよう呼びかける。

四旬節中の十字架の道行は四旬節中の金曜日(除く2/23)小聖堂で行う。

新しいミサ曲の冊子を500部作成予定。販売ではないが献金をお願いする。

外国籍の方への対応として、英語でのアナウンスを検討する。

パイプオルガン用のモニター購入を検討したい。

(2) 宣教部Ⅱシノドスの実践「共に歩む教会」第1回を1月に実施した。

フアシリテーター10名、サポーター10名が運営に加わっている。

(3) 営繕部Ⅱ降誕祭、復活祭、司祭叙階式等多くの参列者が見込まれる時を想定し、2F大聖堂と小聖堂、3F大聖堂の正確な収容人数を把握する調査を行った。

適正な通路幅を確保する為の最適な長椅子の配置について専門部会を新設して検討する。

司祭室改修工事の工期は2024年2月13日(火)～2月24日(土)で

ある。この時、コンテナを設置して行う廃棄物処理の費用は量によって変動する為、実費精算で了承された。

「類似灯火に関する検討書」は、2月1日に福岡空港事務所担当官へ提出、受理された。

(4) 美化部Ⅱ毎週の掃除の奉仕者に「無料コピー券」を渡す。

高圧洗浄機の購入を検討する事とした。

(5) 総務部Ⅱ教会事務受付の4月以降の欠員補充のため新規公募を行うこととした。

(6) 立て看板・掲示板検討委員会

1/31第5回にて具体案を検討した。

英語表記、十字架の設置等の変更点と費用の圧縮の為、改善案を検討する。

次回回は2/14の予定。

(7) アンジェラスの鐘に合わせて祈るために掲示板に貼る「お告げの祈り」を数種のサイズから選定した。

(8) 要望の多い典礼に関する学習会を典礼部主催で深堀純氏を講師に依頼して企画する。

(9) 1/28 世界こども助け合いの日 献金 ¥5,500

大名町教会の現勢

1月31日から2月20日

【転入】ようこそ(・・・教会より)

・パウロ 川崎 明(長崎・鯛ノ浦)

・マリア 川崎 ひと美(長崎・鯛ノ浦)

【転出】お元気で(・・・教会へ)

・ヤコブ 出口 雄樹(京都・河原町)

・アンジェラ・メリチ 竹田 舞

(福岡・浄水通)

・マリア 平田 ヨウ子(福岡・老司)

聖週間と

聖なる過越の三日間

四旬節の最後の1週間は「聖週間」と呼ばれ、「受難の主日(枝の主日)」から「復活の主日」まで、典礼暦の中でも最も重要な時です。今年は3月24日から31日までです。そのクライマックスは、聖木曜日から聖金曜日、聖土曜日を経て「復活の主日」までの「聖なる過越の三日間」です。聖なる四日間と呼ばないのはなぜでしょうか。

一日は日没が始まって日没で終わるユダヤ教の伝統にのっとって、第1日目は聖木曜日の日没に始まり、まず「主の晩さんの夕べのミサ」が行われ、聖金曜日の主が十字架の上で亡くなられた午後3時ころに「主の受難の祭儀」が行われて日没で終わります。「主の受難の祭儀」は、人が集まり易いように聖金曜日の夜に行われます。第2日目は聖金曜日の日没に始まり、大いなる静寂のうちに葬られた主をしのび、聖土曜日の日没で終わります。

同時に第3日目が始まって「復活徹夜祭」を祝います。復活のキリストの大方うそくが闇に輝き、洗礼式によって死から命への過ぎ越しが実現します。

翌朝「復活の主日」のミサが大きな喜びのうちに捧げられ、午後「晩の祈り」が行われて日没になり、三日目が終わります。

「主の晩さんの夕べのミサ」から「復活徹夜祭」までは一つの式です。切れ目はありません。主の受難と死と復活の救いのわざを、聖書が伝える出来事にそって三日をかけて記念します。死から命へ罪から自由への過ぎ越しの恵みを、様々のしるしとことばを通して体験し、アレルヤを高らかに歌って共に進んでいきましょう。

ミカエル 深堀 純